



樹林の隙間から見える力強い護岸石組みと沢流れの景



上 / 滝口辺りの流れの景  
下 / 沢流れの中流にある小滝の景



樹々のトンネルを通して沢流れを見る、もっとも奥深さが感じられる視点場の景

## 庭園の概観

緑水荘庭園は大きく分けて前庭、主庭、坪庭の3つの庭で構成されている。

前庭は、公道から竹塀までの入口通路両側の庭で、石積みによって囲まれている。そこにはタブとカヤの巨木を植えて、堂々とどっしりした重量感を印象付けている。このタブ、カヤは共に佐渡の地域性を代表する樹木であり、植栽構成は中間種を省き、林床にはヤブラン、ギボウシを植えて広がりを感じられるおらかな庭である。主庭は、さらに3つに別れる。1つ目は沢流れを主体にした自然風景庭園。2つ目は八幡堤のすばらしい景観が見えるのびやかな芝生庭園。3つ目は池脇のプライベート庭園である。

自然風景庭園は、モミジ類を主体に落葉樹で構成された木漏れ日の庭で、強い日差しの中でもすがすがしい涼風を感じさせる山深い自然の景色がモチーフになっている。

芝生庭園は、会食やパーティーなどができるように計画されており、前面に広がる美しい湖面を見ながらの食事会などには最適な多目的利用空間である。

プライベート庭園は奥まった場所にあり、しかも低い敷地で、さらに周囲が樹木で囲われているために、人目を気にせずゆっくりと休息ができるように計画されている。花壇を設けて季節のお花を楽しむこともできる生活観のある庭である。

坪庭は、建物西側脇に位置しており、落葉樹主体の自然生態的な庭園である。ここでは林床はできるだけ自然に任せておき、野草を大切に育てながら美しい空間に誘導していこうという考えが基本の庭だ。

これらの庭園は、いずれも夜間利用が可能なように庭園全体に庭園灯が適所配置されており、夜ともなればその雰囲気を一変させる。庭園灯に浮かび上がる幻想的な眺めは、庭園をより一層魅力的なものにしている。

## 庭園の見どころ

古来より日本庭園の多くは、さまざまな自然の美しい風景を庭園に取り入れて「景色」として完成させてきた。桂離宮の天橋立、水前寺成趣園の富士山、小石川後楽園の京都嵐山や木曾谷の風景などがその代表的な例である。これらの場合、狭い空間のなかに自然の風景をそのまま持ち込むことができないためにさまざまな工夫がなされている。「縮景」もその1つだ。

縮景とは、簡単に言えば景を小さくして庭の中に持ち込む技術である。がしかし、単純に縮小した景色ではなく、ある部分を強調したり、省略したりして秩序あるまとまりとして完成させる表現のことである。

ところで、ここ緑水荘庭園の沢流れとその周辺の景色は、この縮景の技術で造られている。

当初地形がほぼ平坦であったために、深く切り下げて起伏をつけてそこを沢流れとし、掘った土を周辺に盛り上げてさらに高低差をつけて奥深い山の雰囲気をつくっている。沢流れの護岸には大ぶりの石をふんだんに使い、上部から沢流れの方向に滑り落ちてきた石が最後に留まったかのように配石して、どっしりとした安定感を表現している。河床には、小さ目の転石をあたたかさも転がり着いたかのように付近に配置し、沢流れの周辺はスギゴケなどで覆い、アセビやツツジ類、セキショウなどさらに自然らしさを強調し、高木樹木は沢流れ近くにはあまり栽植されおらず、全体としてはおおらかで広がりのある景色となっている。